

研究・調査報告書

報告書番号	担当
4	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Joint effect of cigarette smoking and alcohol consumption on mortality. 喫煙と飲酒の死亡率への複合効果	
執筆者	
Xu WH, Zhang XL, Gao YT, Xiang YB, Gao LF, Zheng W, Shu XO.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Prev Med. 2007 Oct;45(4):313-9.	
キーワード	
喫煙、飲酒、死亡率、中国人男性	
要 旨	
<p>目的： 喫煙と飲酒の死亡率への複合効果の評価。</p> <p>方法： 1996年から2000年における上海に住む30歳から89歳の中国人男性66749人によるコホート研究。ライフスタイルの情報は決まった質問表を使い集められた。2004年11月で64515人の男性の生存状況が完成され、および死亡情報が上海生命統計記録との結合を通して確かめられた。関連性についてはCox回帰分析により評価された。</p> <p>結果： 2514人の死亡（癌から982人、心血管病から776人）が297396人年の観察の中から確認された。喫煙経験のない集団に比べ、以前または現在の喫煙者集団は心血管病（CVD）および癌いずれの原因にせよ有意に死亡率が高かった。そしてその危険は喫煙量に従って増加した。一週間当たり平均1-7ドリンク（1ドリンク：ビール350ml相当）の飲酒は死亡の危険度の減少、特にCVD死の危険度（ハザード比：0.7、95%信頼区間：0.5-1.0）、と関連があり、一方一週間当たり平均42ドリンクより多い飲酒は死亡率の増加、特に癌による死亡（ハザード比：1.7、95%信頼区間：1.1-2.5）と関連があった。中等量の飲酒と関連する全死亡率のハザード比では、非喫煙者での0.8から中程度の喫煙者の1.0および高度喫煙者の1.4への上昇を認めた。高量の飲酒者で高度の喫煙者は最も高い死亡率（ハザード比：1.9、95%信頼区間：1.6-2.4）であった。</p> <p>結論： 中等量までの飲酒はCVD死を減少させた。しかし、この効果は喫煙により相殺された。</p>	